

## 春岡村の伝説

### むかしの春岡の正月

#### ●正月三が日

まず年男（年男とは、正月中、神事に関することから食事方面一切を司る男子のことで、だいたいは青年または壮年の者が担当し、年神様のあがる時まで司ります）が早朝に灯明を灯し、神酒と雑煮と大根を各神棚や門松などに供えます。それから雑煮におモチを入れて炊き、家族一同で食事をします。昼は灯明をあげませんが、ご飯を炊いて供えます。夜は灯明のみあげます。親戚の者も呼び合って飲み食いすることもあります。子どもたちはコマまわし、凧あげ、羽根つきなどをして遊びました。

#### ●正月六日

かつては六日年越しといって、この夜も節分の晩と同じように豆まきをしました。

#### ●正月七日

七日には「オジヤ」を作ります。「七草オジヤ」といってオジヤの食い初めでした。オジヤは普通、味噌汁や醤油汁などの中にご飯を入れて炊いた雑炊をいうのですが、七草の朝のオジヤは、ニンジン、ダイコン、サトイモ、ゴボウ、ナスナ、スズシロ、おモチなど七種類のものを入れたオジヤを煮ました。

#### ●正月十一日

「土蔵開き（くらびらき）」といって、この日は土蔵の戸を開けました。また「サク入れ」という農事始めの祭りで、各農家ではその年の「明け方」にクワを持っていき、60センチほどサクを切り（畝を作ること）、白米をまき、サク（畝）の両端に神棚の門松を折って立て、魚なども供えました。

#### ●正月十四日

この日の朝、門松を取り集め、それに最後の雑煮だといって供えます。そして午後は「メーダマ団子（繭玉団子）」といってうるちの粉で団子を作り、木の枝に刺し、さらにウツギを四つ割にし、その間にも団子をはさみ神棚に供えます。

#### ●正月十五日

「成木責め」といってニワトコの木を40～50センチほどの長さに切り、これでおもに柿の木などの果樹をたたいていじめます。「なーるか なんねーか」「なーるか なんねーか」「なんなけりゃ おくやまへもってって」「なーたで くび ぶっきるぞ」と唱えます。この日はまた、小豆粥をつくり、メーダマ団子の中に入れ、俵神様にたくさんお供えしました。この日は藪入りでもあります。ムコ、ヨメ、下男下女は実家に帰ります。（参考『思い出の春岡』『埼玉の民俗』『埼玉の民俗年中行事』）

（平山由喜）

☆春野図書館で春野周辺の昔の写真展開催～はるの写真館～1月5日～2月27日☆